



奨学生に贈る言葉

2022 年卒業生

北海道大学 A

皆様学生生活頑張ってください！ 僕も頑張ります。

青山学院大学 B

「お金がないから」という理由で夢を諦めないでほしいです。

学費免除や奨学金に関する情報を自分で探し、活用すれば片親家庭で下のきょうだいが多く私でも、実家を出て4年間仕送りなしの大学生活を全うすることが出来ました。

時には忍耐も必要ですが、頑張りましょう。

慶應義塾大学 C

社会情勢を読むことが難しくなっており、中々思うような大学生活にはならない方も多いのではないかと思います。私は4年間の大学生活の中でも、コミュニティの必要性を強く実感しています。

たとえコロナ禍においてもコミュニティに属することによっていつでも頼れる仲間がいるというのは、精神的な面でも非常に大きな強みではないかと思います。

それはこの戸田育英財団のコミュニティというのも私にとっては重要なコミュニティの一つとなっており年に一度の交流会で全国の大学生の方からの報告を聞く機会というは大変な刺激となっています。

さらに自分自身もより良い報告ができるよう学生活動へのモチベーションにもつながります。

現状の社会情勢の中でやってきた経験というのは、必ず今後の自信につながれると思うので、皆様のご活躍を応援しています。

芝浦工業大学 D

毎年開催される交流会では、様々な大学について知ることができてとても刺激的です。私は過去に音を鳴らして楽しむサークルに入る方と知り合うことが出来ました。そのサークルは演奏会を開くのではなく、アプリなどを用いて様々なサンプルを取得し、自分たちだけで楽しむサークルなのだそう。とても不思議なサークルで興味深い話を聞くことが出来ました。

交流会で他の学生の方と話すのは緊張すると思いますが、思い切って話してみると面白い出会いがあるので、ぜひ積極的に話しかけて下さい。

芝浦工業大学 E

今後、大学院での2年間でもお世話になります。いつもこのような支援があったからこそ、良い大学生活が送れたと思っても過言ではありません。

日頃から感謝の言葉を伝えることの大切さの重要性です。大学1年生の頃に体育の授業を履修した際に第1回の授業でスポーツとはまず、対戦相手を尊重して人として敬意を払わなければいけないということを教わり、その言葉が自分の心に深くささり仕事に対しても日頃から感謝する大切さを知りました。

そのこともあって普段からバスを利用するときや大学でお世話になった先生などできる限り日頃から感謝の言葉を伝えるようにしました。

そのことによって何が変わったか分かりませんが、少しでも相手にいい影響を与えられたのではないかと考えています。この度も大学卒業まで育ててくれた両親には深く感謝しています。ありがとうございました。

聖マリアンナ医科大学 F

私は6年間の支援を頂きました。私立大学医学部に通うには奨学金なしでは進学はかないませんでした。しかし財団のご支援のおかげで生活費の心配をすることもなく、勉強に集中することが出来ました。6年間再試に関わらず毎年10位以内の成績をおさめることが出来ました。試験前などはアルバイトをする余裕がなかったため、ご支援は大変助けになりました。

また、毎年の交流会では同学年や先輩・後輩の様々な話を聞く機会を頂きました。単科大学で他の学部との交流が持ちづらい中で、様々な学部の方々がどのような勉強をしているのか、力を入れている活動は何かなどの近況をお話しして下さり、自分の世界が広がりました。

また、自身の大学出身のOB・OGの方とも知り合うことができ戸田育英財団を通して新たな出会いをいただけたことにも感謝しています。

是非、後輩の皆さんも自分の学びたいことを十分に学び、また交流会という貴重な機会ですらに自分お世界を広げて下さい。

私も将来はいただいたご支援に恩返しできるよう、社会人として働いていきたいと思っております。

聖マリアンナ医科大学 G

6年間の学生生活を通して、私は興味のあることやチャレンジしてみたいことはとにかくやってみました。医師とは一生勉強する職業だとは聞いていましたが、とにかく毎日が忙しくあっという間の6年間でした。

今思い返してみると、このチャレンジし続けた日々はかけがえのない日々であったと改めて実感します。

後輩の皆さんも、ぜひ興味のあることがあったら恐れず飛びこんでみてください。勉強以外のことでも何でもいいです。皆さんが「やりたい！」と声を上げれば助けて支えて下さる方が周りには意外と沢山います。

そしてその方々への感謝の気持ちを忘れず、やりたいことをとことん追求して行ってほしいと思います。

東海大学 H

月並みな言葉ではありますが、自分が「これだ！」と思える学問に出会い、究めて行ってほしいです。授業を受けてワクワクした気持ちになれるものを学べることは、大学、大学院でなければ味わえない楽しみだと思います。

仕事その他のことを気にせず、好きなものの事をただひたすら学び、考え続けるだけでひょっとしたら世界をも変えられるかもしれないなんていうのは学問ぐらいなのではないかとも思います。

ただ、今自分が何を学びたいのか分からない、大学で学び意義はあるのか、好きな学問なんて…と知っている方もいるかもしれません。

そういう時は、すこしでも「面白いかも」と思えるようなものが見つかるまで、取り敢えずいいから話を聞いてみる、少し授業を受けてみるのもいいのではないかと思います。

大学の外の社会でやりたいことを見つけるのは卒業後でも間に合いますし、かりに好きなものが見つからなくても、見聞きしたことは経験として残りますから、何かの時に役立つかもしれません。

なので、皆さんにはいまはまだ「面白いなあ」と思えるものを見つけ、究めて行ってください！ 応援しています。

東海大学 I

皆様と交流する機会はまだ多くありませんでしたが、会報などで皆様の活動を拝見しておりました。色々な分野で皆様が挑戦していることに私も活力をいただいて感謝しております。

皆様への良い助言などは思い浮かばないのですが、皆様が挑戦し続けることをお祈りしております。

東京大学 J

大学生活は長いようで、あっという間に過ぎてしまいます。大学では高校までと違い多くの時間を作ることができます。勉学・サークル・部活動・アルバイトなど多くの事に取り組み悔いのないように学生時代を過ごしてもらえればと思います。

交流会では様々な大学、専攻の方がおり、勉強している分野の話しや将来の夢などを聞きとても有意義な時間を過ごすことができました。

皆様もぜひ交流会を有効活用してください。

皆様の更なるご活躍をお祈りいたします。

東京大学 K

私は、戸田育英財団の奨学金をいただき、多くの時間と選択肢に恵まれました。その時間と選択肢を活かし、自分の打ち込みたいことに精一杯取り組んだことは私の財産となっております。

皆さんも学びたい事や伸ばしたいことがあれば、ぜひ学生生活の中で打ち込んでほしいと思います。

皆さんの学生生活が良きものとなることを祈っております。

東京音楽大学 L

チャレンジするときは一人かもしれませんが、その先には同志がいると私は音楽大学に入学して気付きました。

皆さんも一人な時があるとは思いますが、決して悪いことではないと思います。努力を諦めなければいずれ結果が見えてきます。頑張ってください。

東京音楽大学 M

令和初年度より三年間の長きに亘り、厚いご支援を賜り有難うございました。お陰様で将来の道筋を拓き、今後の人生設計を熟考し揺るぎないものにすることができました。又コロナ禍でも他大学の学生との交流の機会を設けて戴き感謝申し上げます。

音楽大学とはある種閉鎖的空間でもあり、同世代の仲間の活動を知ることは自分を見つめ直す貴重な機会でした。

この三年間で培ったあらゆる経験を活かし、時に省みて、戸田育英財団より賜った御恩を胸に有意義に過ごしてまいります。

改めて三年間ありがとうございました。

東京農業大学 N

私は4年前、様々な思いを胸に大学へと進学しました。第1志望ではない大学で私らしく頑張っていけるのか不安でいっぱいでした。しかし、本当に素敵な出会いと学びに恵まれ、最高の4年間を過ごすことができました。

何の取り柄もない私ですが、後輩の皆さんにアドバイスできることがあるとするのならば **“与えられた環境でいかに頑張るかでその人の価値は決まる“** ということです。与えられた場所が自分の一番望んだ環境でなかったとしても、そこでの出会いや学びを大切に自分なりに努力を続ければ、必ず道は開けると思えます。

自分自身と周りの人を大事に自分らしく自分のペースで頑張ってください。

戸田育英財団の奨学生になれたことも大きな財産だと思います。交流会で先輩方の話を聞くと、自分も負けていけないなと刺激をもらえます。

ここでの出会いも大切に過ごしてくれたら嬉しいです。

大学4年間は想像以上にあっという間です。後悔のないように楽しんでくれることをお祈りします。

私も皆さんに負けないように頑張ります。

東京農業大学 ○

戸田育英財団からは三年間に亘り経済的なご支援をいただきました。

お陰様で学業に充てる時間や課外活動に充てる時間を十分にいただくことができました。

後輩へのメッセージとしては「**強みを伸ばせ**」という事です。大学生の皆さんは必ずどこかで聞いたことがあると思いますが、それでも僕はこの言葉を後輩に贈りたいです。

自分が周りに影響を与えたい、誰かの役に立ちたいと思うなら、強みを磨くことで多くの人にそれが届き、周りが認めてくれるようになります。

強みが武器になります。自信がない時、信じられるのは自分の強みだけです。弱みを信じることはできません。

しかし、弱みが活かされる時もあります。ドジな人であれば周りから常に声をかけてもらえたり、気にかけてもらえます。

周りは自分を面白可笑しく思って笑ってくれます。弱みも時には活かされます。 だからこそ、僕達が注ぐべきは「強み」だと思うのです。

弱みは受け入れましょう。そうすれば他人の弱みも受け入れられるし、自分に悩むことも少なくなります。

時間は有限です。君たちの「強み」を活かして未来に向かって頑張ってください。

僕も頑張ります。

明治大学 P

奨学生の皆様いかがお過ごしでしょうか。以前は12月に奨学生の集う機会がありましたが、ここ2年は皆様と顔を合わせることができず残念に思います。皆様の中には入学時からコロナにより通学が制限され、満足に大学生活を送ることができていない方も多くいらっしゃる事かと思えます。

コロナによるオンライン授業や行動制限は「個」の時代を推し進めたように思います。その一方で高校生までと違いクラス単位での活動がほとんどない大学では学生の「孤」を強調したように感じます。

奨学生の皆様の中にも慣れない大学生活で頼れる友達も簡単にはできず、心細さを感じた方もいらっしゃるかもしれません。こうした状況だからこそ頼ることのできる人たちがいるというのはどんなに心強い事だろうかと思えます。

私は4年間戸田育英財団の方々に支えていただき、無事卒業することができました。交流会の時には私たちの奨学生の活動報告を笑顔で聞いてくださり夢を応援してくださいました。戸田育英財団の皆様には本当に感謝しています。私自身もいつか恩返しができるように励んでいきたいと思えます。

皆さまには私の好きな言葉を紹介したいと思えます。「1パーセントの可能性を100パーセント信じる」周りの人に何を言われても、くじけそうになってもこの言葉を思い出して頑張してほしいです。

言霊というものがあるように目標を口にして自分の可能性を信じて努力を続けていけば何かを得ることができると思えます。

何かをやりたいことができた時、戸田育英財団の方々はきっと力になってくれることでしょう。胸を借りるつもりで大いに学び、大いに挑戦してほしいと思えます。私も皆様に応援しています。

立教大学 Q

私はある言葉を大切にしています。それは「ノブレス・オブリージュ」という言葉です。これは直訳すると「高貴さは強制する」という意味で、財産、権力、社会的地位の保持には義務が伴うことを指します。

大学の講義で担当の教授から伝えられました。私自身は裕福な家庭で生まれ育ったわけではありませんが、まだ恵まれている方だと思えます。

何故なら経済的な理由で大学に通うことすらできない人達もいるからです。

私の同い年の友人は過去に大学の学費が払えない理由で入学を断念し、長時間のアルバイトをしていました。こういった人たちの役に立ちたい、助けたいと思うのは自己満足だという捉え方もできますが、私は社会的に優位のある立場にいる人は恵まれない人たちの為にも、社会に貢献する責任があると考えています。

4年間大学という機関に守られながら、自己投資できるのは非常に貴重な時間と思えます。そんな貴重な大学生活を自分のために、また他者のために有効活用してもらえたら、それほど嬉しいことはありません。

早稲田大学 大学院 R

後輩の皆さんには、残りの学生生活を存分に楽しんでいただきたいと思います。

社会人になると時間が制限されるだけでなく、企業の一員として責任が生じ、自分のやりたいことができにくくなってしまおうと感じています。

学生のうちに学生時代にしかできないことに積極的にチャレンジしてほしいです。

あらゆる物事に目を向け、好奇心を持って残りの学生生活を充実したものにしてください。

早稲田大学 大学院 S

大学では研究等を通じて自分自身と向き合い、成長することができたと感じています。しかし、自分にとって一番の財産は大切な友人たちと出会い、キャンパス内だけにとどまらずに、共に時間を過ごせたことであると感じます。大学生活はあっという間に過ぎてしまいます。コロナ禍で様々な制限があると思いますが、可能な範囲で様々な友人と出会い、行ってみたい場所に行き、自分の視野を広げてほしいと思います。

早稲田大学 T

昨今コロナウイルス感染症流行下で、各大学の授業がイベントを初めとし、戸田育英財団の奨学生が一堂に会する交流会もオンラインでの開催となってしまいました。

次年度の開催形式がどのようになるか分かりませんが、対面の時は特に交流会で他の同世代が異なる分野・大学で学ぶ方々が何に励み、何を考えているのか吸収し沢山コミュニケーションを取ってほしいです。

私の代は1, 2年生の時は対面で実施され、普段の大学生活では出会わない他分野・学生のバックグラウンドも異なる人たちの興味や熱意に触れることができました。自分の世界が少し広がると共に自分も頑張らなくてはと鼓舞される貴重な場でした。

貴重な場、時間を作っていただいた戸田育英財団の皆様、沢山の刺激を与えていただいた奨学生の皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。

次年度は大学院に進学いたします。また皆様にお会いできる日を楽しみにしております。

早稲田大学 U

戸田育英財団の奨学生の皆さんは活動的な方が多く、非常に尊敬しています。しかし、人にはそれぞれ異なった性格を持っていてまたそれぞれに良いタイミングがあるとも思います。

常に表に立って活動していく中で、学び成長していく人、自分の内側でエネルギーを溜めてある時はそれを解放する人、様々なタイプの人がいると思います。学生時代はその自分のタイプを知り実行し始める期間だと思います。

そのためには多くの実験が必要です。失敗を目的にするのもよいと思います。その結果、尊厳に値する活動的な皆さんがいるのだと思いました。

戸田育英財団の奨学生の皆さんの多大なる成長と素晴らしい学生生活をお祈りいたします。

早稲田大学 V

私が後輩の方々にお伝えしたいのは「交流会」をぜひとも大事にしてほしいということです。

私は2019年度から戸田育英財団の奨学生としてご支援をいただいております、これまで2度の交流会に参加させていただきました。

2019年12月に初めて交流会に参加させていただいたのですが、正直参加前は「財団の方に自分の現状を話して、他の奨学生の話聞くだけ」くらいにしか思っていませんでした。しかし実際に他の方々のお話を聞くとそれぞれ自分が将来やりたいことやそのための道筋が明確に決まっております、当時まだぼんやりとしか将来を考えていなかった自分は衝撃を受けました。

それと同時に自分の将来をしっかりと考え始めるきっかけにもなりました。また食事を楽しみながら他の奨学生の方々と様々なお話しをし、沢山の刺激をもらえました。そして昨年のオンライン交流会では2年前に交流した方々が皆、当時話しされていた将来へ向けての第一歩を踏み出していました。

それを聞いて私も素直に「**自分の将来に向かってやるべきことはやっぴいこう**」という気持ちになりました。

今後、コロナ情勢がどのように変化していくのかまだ分かりませんが、オフラインやオンラインであれ他の奨学生の方々と交流を深め、自分の将来を考えるきっかけの一つとしてほしいと思います。

早稲田大学 W

突然ですが**アドラー心理学**では、自己受容を重んじます。これは平たく言ってしまえば自己肯定感の類ですが、もう少し多くのニュアンスが込められている言葉でもあります。例えば身体がなくなった老人は本人の意思は関係なく、身の回りの行為を全て介護者に任せることとなり自己受容が欠如すると言われております。

その結果として全て「いいよいいよ」と受け入れる優しすぎる老人が、全てに対して不平不満しか言わない老人になってしまうことがあるそうです。

この正反対とも思われる特性が同様に自己受容の欠如に起因するわけです。これは自分の解釈ではありますが、自己受容というのは世界に対して何らかの相互作用を与えられる実感ともいうことができます。

映画鑑賞の是枝さんは大学時代、つまらない授業を抜け出し映画館に通いつめたことで映画が自分の城になったと言いましたが、このような「城」をもつことは時代と共に難しくなっているように感じます。

広義の上での「子ども」犠牲化不可能で殺害可能な私達が今後生きる上で、如何にして自己受容を持ちえるのか、大学とはそれを探求する場であるはずで

同志社大学 X

コロナ禍ということで年に一度の交流会もオンライン開催になってしまい、多くの方に直接お会いすることなく卒業となってしまったこと残念に思います。

皆さんへのメッセージですが私は大学院へ進学したため、まだ皆さんと同じ学生であり社会人としてのアドバイスができないので学生生活の過ごし方として簡単にアドバイスできたらと思います。

皆さんの中には、とりあえず大学に進学し将来の夢が決まってない人もいます。大学生活では将来について考えることもとても大事だと思いますが、とにかく今しかできないことを見つけて充実した学生生活を満たしていただきたいです。

私は大学生になり、新たな挑戦をしたいと考え、今までスポーツしかやっていなかったのですが、音楽系のサークルに入りました。ここでは、それまでの環境と違った場所で多くの人と出会いいろいろなことを学ぶことができました。

これまでの環境と全く違う環境で出会う人たちはとても新鮮ですし、自分の視野を広げることができました。コロナ禍ということもあり、なかなか新たな挑戦をする機会を作ることが難しいと思いますが、ぜひ皆さんにも今までとは違う環境で新たな挑戦をしていただきたいと思います。

立命館大学 Y

奨学生の皆さんには、一つ一つの経験を大切にしてほしいです。今後の学生生活において皆さんがどのような経験をされるのか分かりませんが、その経験を大切にしてください。

身の上話になりますが、経験を積み重ねたことで実を結ぶことができました。私が所属していた研究室ではプレゼンに力を入れており、1週間に2、3回のゼミがありました。ゼミの発表では研究の進捗を報告することよりも、聴衆にとって分かりやすい発表であるかが重要でした。

進捗の報告書を1週間に1回提出するため、教授は進捗を把握しています。そのうえで、教授は分かりやすい発表だったかを判断します。分かりにくい箇所があると、質疑応答の時間で詰められてしまいます。

質疑応答の時間で教授を納得させることができない場合、次のゼミでその個所の分かりやすい発表が課せられます。私は同学年の中で詰められた回数が1番多く、その年度での発表回数の最多記録を出しました。

私は人前で発表することが苦手なため、発表の経験がほとんどありません。経験の乏しさが不名誉な記録に繋がったと思います。

しかし、何度も発表を経験していくうちに、教授から詰められることが少なくなりました。また卒業発表の練習後に、教授から学部生の中で発表が1番上手いと誉めていただきました。

奨学生の皆さんに経験を大切にしてください。どんな些細なことでも、皆さんの成長の糧になると思います。残りの学生生活も充実して過ごしてください。

京都大学 大学院 Z

人生の間で大きく成長できる期間は限られていると思います。

体力的に20代から30代までが大きく成長できる機関であると思います。その間に何をすることがとても大切であると思います。学生間の時間は貴重です。学生間に何もかも徹底的にやり込んでみてください。

失敗も多くするかとは思いますが、失敗して気付いて早めに軌道修正すればいいと思います。

年に一度の交流会でお会いできることを楽しみにしております。

末筆になりましたが財団の皆様本当に世話になりました。

これからも皆様のご活躍することを心から祈っております。

京都大学 大学院 AA

長いようで短い学生時代、あっという間に過ぎてしまいます。

趣味でも、勉強でも何か夢中になれるものを見つけると、楽しく充実したものになれるかと思っています。

やったことがないことに挑戦してみるのもいいと思います。

自分の例で恐縮ですが、私はインドア派で海外はおろか国内旅行にほとんど行ったことがなかったのですが、時間がある今しかできないことをやろうと思い、海外旅行に行ってみたら大好きになりました。

貧乏旅行もいい思い出です。やってみると、意外に自分にはまることが見つかるかもしれません。

積極的にチャレンジしてみてください。

京都大学 AB

現奨学生の皆さまにあたっては、長引くコロナ禍の中、不自由な学生生活を強いられていることと存じます。学業や就職活動、人間活動などで悩んだ時には、是非周囲の人に相談してください。私も就職活動についてなど、沢山の方にご相談させていただきました。

現状の整理や新たな視点の獲得ができる上に、自身の気持ちと向き合う時間もなります。また、悩みとまではいなくても、何か目標を達成しようとする際には、先輩や友人から助言を得るべく、自分から積極的に行動することがとても有効だと思います。

一生懸命に動いていれば、真摯にアドバイスをしてくれるが入るはずですよ。戸田育英財団のご縁にもぜひ頼ってみてください。

最後になりますが、財団をはじめ多くの支えのおかげで勉強の機会が与えられている事への感謝を胸に、一日一日を大切に目標に向かって頑張ってください。

皆様のご健康とご活躍を心よりお祈りしております。

筑波大学 大学院 AC

まだまだ、コロナの影響で自由に行動できない状況ですが、これから目を向け、毎日少しずつ自分のやるべきことを見つけ、頑張ってください。

約二年前には多くの学生がコロナにより金銭的にも精神的にも実際の行動制限という点においても、追い詰められるような状況でした。

その厳しい状況の中で私は戸田育英財団の奨学金による金銭的な支援はもちろんのこと、それにより生まれる精神的な面での支えのありがたさを改めて実感しました。

思ったように学生生活を送れていない現実もあるとは思いますが、今ある支えに目を向けゆっくりと自分のペースで自分だけの学生生活を謳歌してください。

東京理科大学 AD

大学や大学院では勉強や研究も大事ですが、その期間に知り合った仲間はかけがえのない財産になります。ちょっと親交の和を広げ過ぎかなくらいで丁度いいと思うので、出会いの質・回数そしてその継続も大事にしてください。

東京福祉大学 AE

私は小学生の頃に父親を亡くし、母娘と2人で暮らしています。母親は父を亡くした後に、うつ病になり現在も治療を続けています。私は父の死や母の病気の経験から心理学に興味を持ち、大学では心理学を専攻しながら養護教諭（保健室の先生）の資格を取得しました。

他学部から教職を取っていたため、他の学生よりも授業数が多くまたキャンパスの移動もありアルバイトをする時間的余裕がありませんでした。

そんな時に戸田育英財団の給付型奨学金を知りました。私の通う学校は、財団の指定校ではなかったので、正直なところ採用していただけるとは夢にも思いませんでした。

奨学生として採用していただいてからは、とても刺激的な日々でした。

自分とは違う大学や学部の方々と出会い、自分の研究内容や将来の夢、やりたいことについて語り合いました。

コロナ禍となった際には、大学の授業がオンラインとなりモチベーションが下がっていましたが、励まし合い無事に卒業することができました。

皆さんには、奨学生との交流も大切に自分のやりたいことを突き詰めて下さい。皆様と戸田育英財団のご発展とご活躍をお祈り申し上げます。